

2004年6月24日

各位

三井化学株式会社

メタロセン触媒による機能性ポリエチレンワックス(商標:エクセレックス)事業化

当社(社長:中西宏幸)は、各種樹脂の成形性改良などに使われるポリエチレンワックスを製造・販売しておりますが、この度、新たにメタロセン触媒を用いた機能性ポリエチレンワックス(商標:エクセレックス)を、2004年10月に事業化することと致しました。

<事業化計画の概要>

- 1.製 品 : メタロセン触媒を用いた機能性ポリエチレンワックス
- 2.商 標 : エクセレックス(EXCEREX)
- 3.製造設備 : 岩国大竹工場内に設置
- 4.生産能力 : 9,000トン/年
- 5.技 術 : 自社技術(メタロセン触媒)
- 6.スケジュール : 着 工 2004年 2月
完 工 2004年 6月
商業運転開始 2004年10月

当社は、中期経営計画(04年度~07年度)において、機能性ポリマーズ、情報・電子材料、ヘルスケア材料からなる機能性材料分野の拡大・成長を目指しております。そのなかで、機能性ポリマーズ分野は高収益事業への事業ポートフォリオ変革の中心的役割を担うべく、当社の優れた触媒技術を活用した新製品の研究・開発に努めて参りましたが、今般、機能性ポリマーズ分野に新製品エクセレックスが新たに加わることとなりました。

エクセレックスは、メタロセン触媒を用いた新製法を採用したことにより、従来のチーグラータ触媒使用ポリエチレンワックスに比べて、低融点化、低分子量化、高硬度化、反応性基付与(別紙参照)が可能となり、従来品では応えられなかった顧客ニーズに対応が可能となりました。用途は、各種樹脂(汎用樹脂、エンブラ、コンパウンド)における成形性改良剤および改質剤、樹脂充填剤の分散剤、オイル固化剤、精密鋳型材料、印刷・印字材料、土木建築材料等であり、日本を中心として世界の新たな市場ニーズが高まっております。特に、反応性基を含有したワックスは、様々な材料と組み合わせることにより、新たな用途開発が可能な機能性ワックスとして期待されております。

当社は、チーグラータ触媒使用ポリエチレンワックス(年産能力11,000トン)、熱分解法を用いたポリエチレンワックス・ポリプロピレンワックス(年産能力3,000トン)の生産設備を岩国大竹工場に有し、ハイワックスという商標で製造・販売しております。この度、岩国大竹工場年産9,000トンの製造設備を設置し、2004年10月よりエクセレックスの本格生産を開始致します。これにより、当社ワックス全体の年産能力は23,000トンに拡大します。

当社は今後とも、機能性材料分野の拡大・成長に向け、機能性ポリマーズ事業を収益の柱として育成すべく、更なる新製品開発・新規用途開発の加速を図っていく方針です。

以上

本件に関するお問い合わせ先

三井化学株式会社 IR・広報室長 古賀義徳 03-6253-2100

< 注：語句解説 >

低融点化

低温で溶融する為、加工・成形可能な温度範囲を広げる事が出来る。

低分子量化

溶融した時の流れ性が向上する。又、溶剤への分散性も向上する。

高硬化化

同じ融点、粘度ではより硬いことで、耐摩耗性のあるものとなり、コーティング用途等で効果を発揮する。

反応性基付与

本製法によるポリエチレンワックスは、分子中に炭素・炭素二重結合を形成することができる。この炭素・炭素二重結合は、水酸基、カルボン酸基、エポキシ基などの反応性基に変換することが可能である。

ポリエチレンワックスに反応性基が付与されると、この反応性基が他の素材と結合したり、親和性を持ったりするため、他の素材がポリエチレンワックスとうまく混じりあった新しい複合素材ができる。

以上